

令和5年3月14日（火）

【秋山監督課長】 それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和4年度第2回愛知地方労働審議会労働災害防止部会を開会させていただきます。

委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、当部会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。当部会の事務局を務めております愛知労働局労働基準部監督課長の秋山でございます。本日の司会進行をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

本日の委員の出席状況ですけれども、全員御出席されておりますので、当部会が有効に成立していることを御報告いたします。また、本日、会議次第及び資料につきましてはお手元にお配りしております。また不足等がございましたら事務局までお知らせください。

それでは、開催に当たりまして、労働基準部長の伊勢より御挨拶申し上げます。よろしくお願いたします。

【伊勢労働基準部長】 皆様、おはようございます。労働基準部長の伊勢でございます。

本日は大変御多忙のところ、労働災害防止部会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、再三にわたる日程調整の上、急遽、本日に繰り上げて開催に至りましたことを心よりおわび申し上げます。

委員の皆様には日頃から労働災害防止の取組に御理解、御協力をいただいておりますこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

昨年11月、当部会におきまして、13次防の取組結果を報告させていただくとともに、14次防の策定に向けて貴重な御意見を頂戴いたしました。

本日は、いただいた御意見を踏まえつつ策定いたしました14次防の案につきまして、担当から説明させていただきますので、御審議の程、よろしくお願いたします。

短い時間ではございますが、皆様方の忌憚のない御意見、御提案をいただければと思っております。本日はどうぞよろしくお願いたします。

【秋山監督課長】 ありがとうございます。

次に、本部会の審議及び議事録ですが、愛知地方労働審議会運営規程第5条により、原則公開とされております。また、本部会の開催につきまして2月28日に公告をしたとこ

ろ、傍聴の希望がなかったことを御報告いたします。

それでは、これからの司会進行は、堀西部会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【堀西部会長】 おはようございます。部会長を務めさせていただきます堀西です。

本日は、短い時間での開催となります。御協力のほどよろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、議事に入ります。

議題（１）、第１４次労働災害防止推進計画についてです。

事務局から説明をお願いいたします。

【濱田安全課長】 委員の皆様方、大変お世話になります。安全課長、濱田でございます。どうぞよろしく願いいたします。

先般、委員の皆様方には個別に御説明をさせていただきました。本日、短い時間ではございますので、ここでは最も御質問が多かった１点について御報告をさせていただきます。

改めまして、資料３号の３枚目を御確認ください。

安全経営あいちの推進をタイトルとしているページでございます。

最も御質問が多かった１点について御報告をさせていただきます。アウトカム指標のところ、死亡災害、早期に２５人を下回る、また、製造業の死亡災害、６人を下回る、建設業の死亡災害、５人を下回るという、少し野心的な数字を掲げさせていただいているところでございますが、こちらにつきまして、まず死亡災害、早期に２５人を下回るというのは、１３次防期間中に既に２６人という、過去最少の数値を記録したということで、それを１つ下回るということ、製造業、建設業の死亡災害につきまして同様に、過去最少の人数を１人下回るという目標とさせていただいているところでございますが、これにつきまして、少しエビデンスとして御説明をさせていただきたいものがございます。

資料第４号を御覧ください。労働災害による死亡者数の推移という１枚ものでございます。

こちら、上段のほうは全国と愛知の死亡者数を経年で取ったものでございます。この２００８年から取っておりますのは、実は１１次防、１２次防、１３次防を面として見たときの、下のグラフに導くための根拠となるものでございます。

当局におきましては、２００６年からリスクアセスメントの推奨を始めました。初めは、輸送用機械器具製造業についてのみ、２０１３年までお取組をいただいております。以降順次、製造業全体、２０２１年からは全産業に対して個別の指導等々で推奨をしていると

ころでございます。

その結果でございますが、全国の労働災害の減少率、死亡災害の減少率と、愛知の死亡災害の減少率のグラフを掲げております。全国が1 1次防から1 2次防で1 2. 2%、1 2次防から1 3次防で1 5. 8%の減少であるのに対し、愛知は1 1次防、1 2次防で1 4. 1%、1 2次防から1 3次防で1 9. 6%と、リスクアセスメントの効果というのは数年先にじわじわと効いてくるというふうに理解をしているところでございます。

この減少率の高い水準で推移しているということを鑑みますと、1 4次防において、最終年で2 5人の達成というのは期待できるのではないかとというようなことでございます。

ちなみに本年の死亡災害は、本日現在で4人ということでございます。1 2か月をたってみないと分からない話なんですけれども、昨年よりも大幅な減少で推移していることを御報告させていただきます。

私のほうからの御説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

【堀西部会長】 ありがとうございます。

ただいま説明がありました第1 4次労働災害防止推進計画につきまして、各委員の皆様から御質問などがございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

では、城委員、お願いいたします。

【城委員】 一つだけお伺いいたします。

今、安全課長さんからお話がありましたが、リスクアセスメントに基づいた対策がじわじわ効いてくるだろうと、私もその考え方には賛成なんですけど、今度、国としてそのリスクアセスメントをいかにサポートしていくのか、この安全経営あいちもその一環の一つだとは思いますが、その辺りについての今後の対応と申しますか、国として、あるいは愛知労働局としての御対応というのはどのようなことをお考えになっているか、簡単に結構でございます。お願いします。

【堀西部会長】 では、安全課長さん、お願いいたします。

【濱田安全課長】 御意見ありがとうございます。

まさに先生おっしゃられるとおりで思っております。リスクアセスメントをどのようにサポートしていくかということでございますが、どうしても私どもも、簡単にお話をすればいいことをわざわざ難しく説明することも少なくないかと反省しているところでございます。

その中で、既に先進的に進んでおられる業種に対するさらなるリスクアセスメントの高

みを目指していただく内容、そして、これから新たにリスクアセスメントをお取り組みいただく方々には、我々も、そもそも生活しているときも、ふだんからリスクアセスメントをして生活しているというような、そういう入り口をできるだけソフトな形にして、そんなに難しくないんだというような形で説明できるように、それぞれ相手方に応じたリスクアセスメントとの理解度合いに応じた対応を進めていければというふうに考えております。

先般、御説明させていただきましたとおり、リスクアセスメント出前講座というものが大変好評をいただいております。これはそれぞれの業種業態でまとまっていたというメリットを最大限生かして、その業種業態の実態に合わせた説明を引き続き続けていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

【堀西部会長】 御説明ありがとうございました。

城委員、今の関係でよろしかったでしょうか。

【城委員】 はい。

【堀西部会長】 では、部長のほうからよろしく願います。

【伊勢労働基準部長】 安全課長が言ったとおりであります。まずリスクアセスメントという言葉がまだなかなか浸透していない部分もあるのかなと個人的には思っております。パワハラであるとかセクハラであるとかという言葉は、根づくのも時間がかかったように私は認識しております。

リスクアセスメントという言葉が、パワハラ、セクハラと同じレベルとまではいきませんが、それに近いぐらい皆さんに認識してもらえる、その上でその内容を理解してもらえるというような状況をまずは第一歩として、国として、愛知労働局として機運の醸成を図っていかなくちゃいけないのかなと思っております。そのためにいろいろな広報をやって、出前講座もひっくるめて何とかやっていきたいと思っております。

以上です。

【堀西部会長】 ありがとうございました。

それでは、ほかの委員からも御質問のほう…。

では、岩原委員、お願いいたします。

【岩原委員】 ちょっと数字の見方だけ確認させてください。

先ほど御説明いただいた、早期に25人を下回るという数のことなんですけれども、資料の4で説明された過去の実績からいうと、この2022年、一番右側の35人のところ

を25人にするという、そういうふうに読めばいいんですか。ちょっと読み方が。

【堀西部会長】 安全課長のほうから御回答をお願いいたします。

【濱田安全課長】 岩原委員、ありがとうございます。

基本的には、2022年の数字をベースにしてという考え方なんですが、死亡者数につきましては、もともと数値が死傷者数と違って大きくないということでございまして、この14次防の期間中に、できるだけ早い時期に、例えば来年とか再来年とかというところで、25人を下回るというような、そういう目標でございまして。

【岩原委員】 22年度が35人であったけれども、年によってばらつきが大きいものですから、一番少ないのに早く達成したいという、そういうことですね。分かりました。

それから、最後に課長がおっしゃった、ちょっと聞き取れなかったんですけども、今年はまだ終わっていないけれども、今年的人数が4人というふうに聞こえたんですけど。

【堀西部会長】 では、安全課長のほうから引き続きお願いいたします。

【濱田安全課長】 大変失礼いたしました。言葉足らずで申し訳ございません。

私どもの統計でございしますが、暦年で取っております。この資料4の2022年の35人というのは、本日現在の2022年の統計でございまして。統計を確定させますのは、3月31日をもって確定させるというルールになっております。このため、まだ2022年の数字は確定してございません。

先ほど4名と申し上げたのは、2023年の死亡者数、暦年でやっておりますので、2023年の1月から昨日までの死亡者数が4名ということでございまして、昨年同期比でマイナス5人ということでございます。よろしく申し上げます。

【岩原委員】 ありがとうございます。

【堀西部会長】 ありがとうございます。

ほかの委員から御質問ないでしょうか。

短い時間なんですけど、まだ若干お時間ございますけど、よろしかったでしょうか。

では、質問と御回答、いろいろいただきまして、まず、城委員のほうからは、リスクアセスメントの国としてのサポート体制について、フォローをどういうふうにするのかということの御質問がございまして、それについて、安全課長、部長から御回答いただいております。

また、岩原委員のほうから、目標の14次災害防止計画25人についての死亡災害の目標数値及び今年の4人の死亡者数という御説明があった中での、その数値のもう少し詳しく

い御説明をということで、再度安全課長のほうから御説明をいただきました。

議論も尽きないところなのですが、時間の制約もありますので、この辺りで議事を終了したいと思います。

ただいま各委員の皆様からいただいた御意見も踏まえて、次期の労働災害防止計画を推進いただくとともに、効果的な対策を講じいただきますよう、お願いいたします。

以上で議事は終了となりますので、事務局にお返ししたいと思います。どうもありがとうございました。

【秋山監督課長】 堀西部会長、どうもありがとうございました。また、委員の皆様もありがとうございました。

最後に、事務局を代表いたしまして、労働基準部長の伊勢より挨拶をさせていただきます。

【伊勢労働基準部長】 委員の皆様におかれましては、貴重な御意見ありがとうございました。大変短い時間ではありますが、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

本日の御意見を踏まえまして、14次防を推進してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。本日はありがとうございました。

【秋山監督課長】 それでは、以上をもちまして閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

引き続き、3階の会場で地方労働審議会の本審のほうが開催されますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

— 了 —